

都が整備する新設施設の状況

別紙

1 本年度基本設計を予定している施設

	会場名等	会場予定地等の状況	今後の検討課題
①	オリンピック・アクアティクスセンター (競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング /大会時20,000人→大会後5,000人) (パラリンピック:水泳)	・都外も含め活用可能な既存施設は存在しない。 ・大会後は5,000人規模の国際水泳場として大会利用及び都民利用に活用が見込まれる。	・大会時20,000人収容の会場を大会後に適正規模の5,000人に縮小する工法や大会後の利用について、基本設計を通じて検討
②	海の森水上競技場 (ボート、カヌー(スプリント) /大会時14,000人+立見10,000人→大会後2,000人) (パラリンピック:カヌー、ボート)	・都外も含め活用可能な既存施設は存在しない。 ・整備費高騰の懸念	・具体的な会場レイアウトの変更等、整備費圧縮の方策や大会後の利用について、基本設計を通じて検討
③	有明アリーナ (バレーボール/15,000人) (パラリンピック:シッティングバレーボール)	・オリンピックのバレーボール会場となり得る施設は近隣県を含めてもごく限られる。 ・現況は更地で都民生活への大きな影響は無い。	・大会後に想定される利用方法等を踏まえた具体的な施設構造等を、基本設計を通じて検討
4	夢の島ユースプラザ・アリーナA (バドミントン/7,000人) (パラリンピック:車椅子バスケットボール、車いすフェンシング)	・現存する東京スポーツ文化館や公園の利用者への影響について検討を要する。	・代替となる既存施設の調査・検討 ・現計画について、地歴調査を含め、引き続き検討
5	夢の島ユースプラザ・アリーナB (バスケットボール/18,000人) (パラリンピック:車椅子バスケットボール)	・オリンピックのバスケットボール会場となり得る施設は近隣県を含めてもごく限られる。 ・現存する東京スポーツ文化館や公園の利用者への影響について検討を要する。	・代替となる既存施設の調査・検討 ・現計画について、地歴調査を含め、引き続き検討
6	若洲オリンピックマリーナ (セーリング/2,000人+立見3,000人→大会後0人) (パラリンピック:セーリング)	・防波堤工事等に工期を要し、工程に余裕が無い。 ・利用可能な陸域が狭く、セーリング施設としての後利用に懸念がある。 ・競技海域上空の航空管制が大会運営の制約となるおそれ。	・代替となる既存施設の調査・検討 ・現計画について、整備規模の縮小等について、引き続き検討 ・競技海域の設定について調査・検討

2 その他の都立施設

	会場名等	検討状況等
1	葛西臨海公園(カヌー(スラローム)/12,000人+立見3,000人→大会後0人)	隣接地を活用した施設配置について検討中。
2	武蔵野の森総合スポーツ施設(近代五種(フェンシング)/8,000人)	既に着工しており、着実に整備を進める。
3	大井ホッケー競技場(ホッケー/15,000人→大会後4,000人)(パラリンピック:視覚障害者5人制サッカー、脳性麻痺者7人制サッカー)	レガシー、都民生活への影響、整備費の視点で検討中。
4	夢の島公園(アーチェリー/7,000人→大会後0人)(パラリンピック:アーチェリー)	